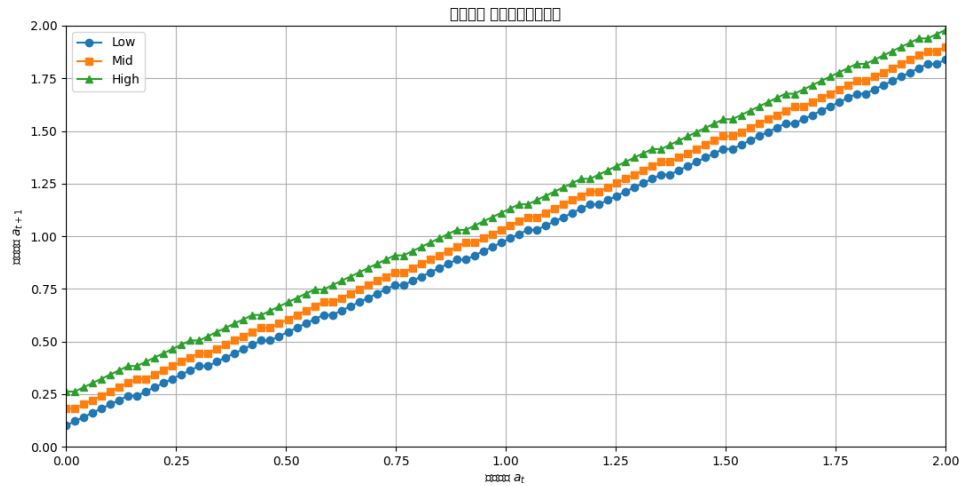


問 1

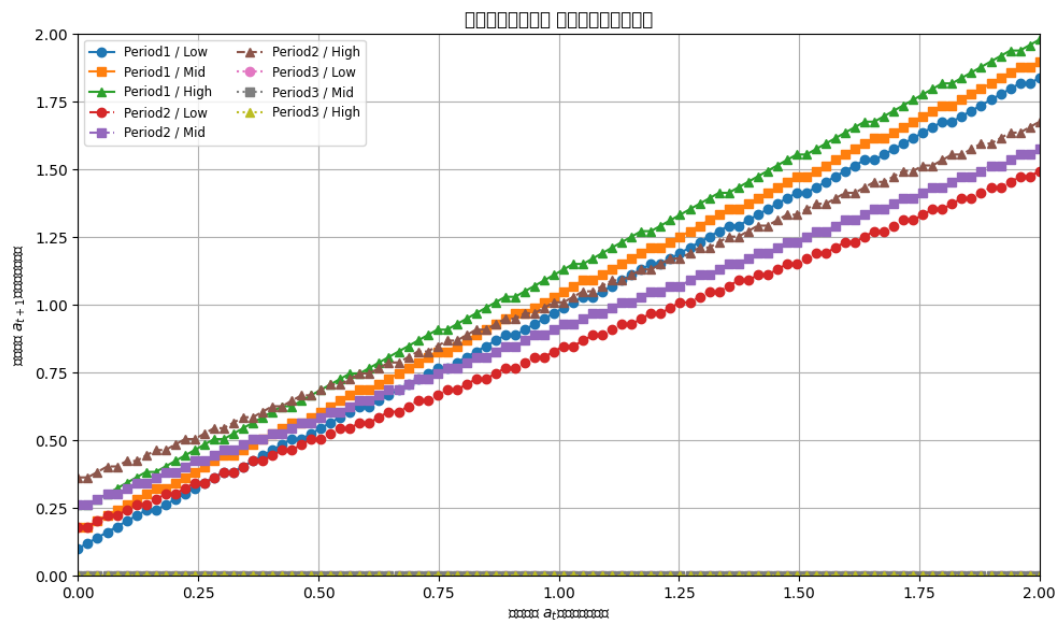


生産性が低い人たちほど、貯蓄額は低く、生産性が高い人たちほど、貯蓄額が高くなる
ことが上の図から読み取れる。

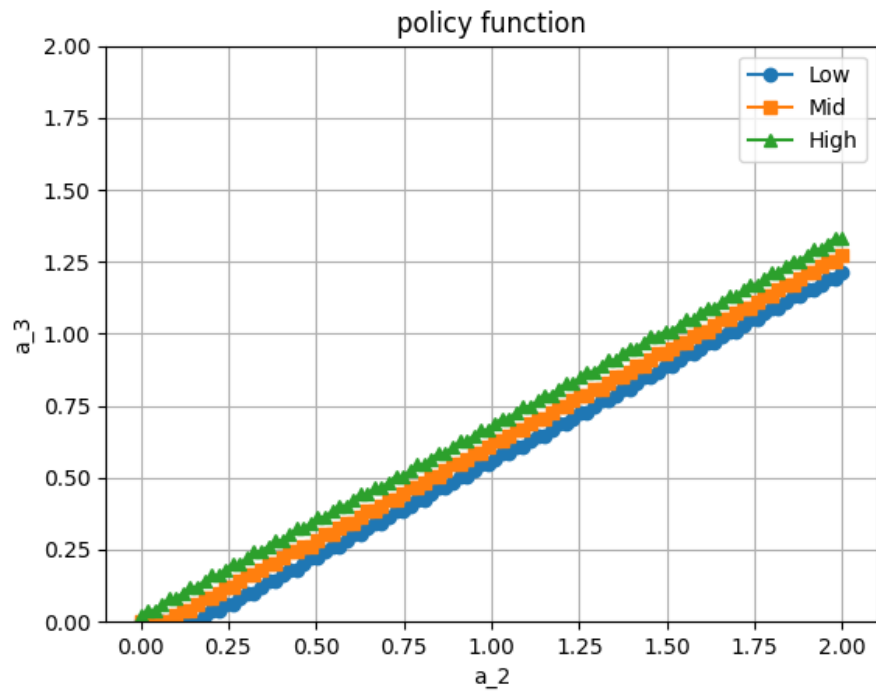
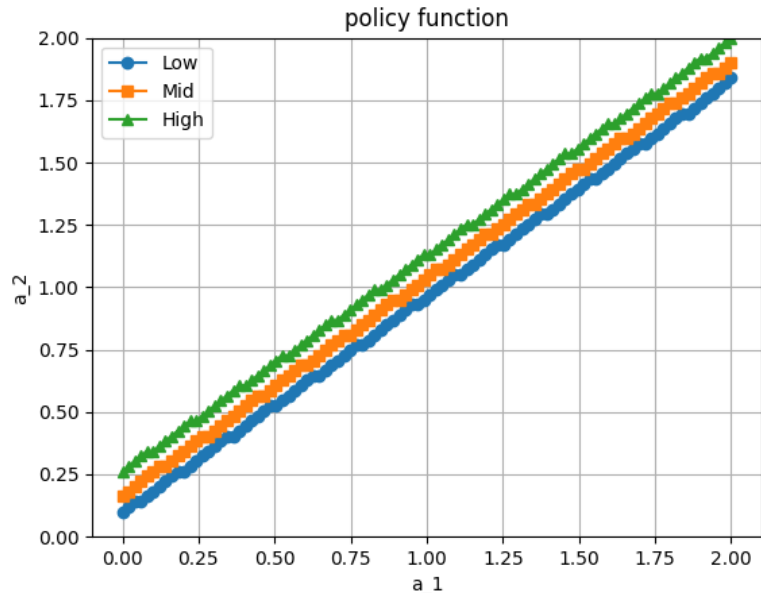
理論としては、生産性が低い人たちほど所得が低いので、消費に回す値が多くなり、ちょ
つづくができないが、生産性が高いほど、所得が多く、消費に回す割合が低くなり、貯蓄額
が多くなる。

また、消費平準化の理論により、なるべく消費を平均化しようとするか、消費が多いほど
平均

化したときの値が大きく、貯蓄額が多くなる



問2、問3



Pension (一人当たりの年金額) = 0.4986

年金を第2期に導入したことで、第2紀から第3期への貯蓄額が減少している。

ここでは、年金を一律で徴収することにより強制貯蓄が行われる。

そのため、貯蓄をすることへのインセンティブがへり、また貯蓄できる資金そのものが減ること、第2紀から第3期への貯蓄額が減ることになる。

また、年金により消費平準化のための資金が強制的に貯蓄されるため、その分消費平準化のための貯蓄額が減る。

問4

年金を導入した場合の、効用：-2.580039

年金を導入しない場合の効用：-2.594469

年金を導入したことにより効用は増加しているので、年金導入したこと自体が意義がある。

理由としては、生産性が低い人たちが、年金により3期に消費を増加させることで効用が大幅に増加するが、生産性が高い人たちは消費が減少しても限界効用逓減の法則により、たいして効用が減少しない。

そのため、全体として増加する。